

令和2年度

事業報告書

社会福祉法人 清琉会

# 社会福祉法人 清流会

## 令和2年度 事業報告書 目次

● 総括	P1
● 法人動向	P3
● 玉川グリーンホーム	P5
○ 介護事業部	P5
◆ 施設介護課（入所相談担当）	
◆ 施設介護課（ケアプラン担当）	
◆ 施設介護課（介護担当）	
◇ 本館特養係	P6
◇ 新館特養係	
◇ ショートステイ係	
◇ ユニット特養1係	P7
◇ ユニット特養2係	
◆ 在宅介護課	
◇ 居宅介護支援係	P7
◇ 通所介護係	P8
○ 総務部	P8
◆ 総務課	
◆ 栄養課	P9
◆ 医務課	
● 高松山グリーンホーム	P10
● 愛甲グリーンホーム	P11
● 小町山グリーンホーム	P11
● 厚木市玉川・森の里地域包括支援センター	P12
● 地域貢献事業等	P13
● 委員会活動	
○ 育成委員会	
○ 介護技術向上委員会	P14
○ サービス向上委員会	P15
○ 拘束・事故防止検討委員会	
○ ICT推進委員会	P16
○ 環境衛生委員会	
○ 防災対策委員会	P17

## 令和2年度 総括

令和2年度のスタートに向け事業計画を作成したのは、令和2年1月から2月頃に掛けてでありました。当時は直前に国内で初確認された新型コロナウイルス感染症（covid-19）により、これほど多くの影響が出てしまうとは正直考えておりませんでした。しかし、月が替わり3月になった頃には既にご承知の様な状況になっており、新年度になった直後には第1回目の緊急事態宣言が出されるなど、例年とは全く異なる手探りでのスタートとなり、事業計画も大幅な見直しをしなければなりませんでした。

事業計画に謳った「法人施設を取り巻く皆様との繋がり」。顔と顔を突き合わせ築かれる他者との信頼関係構築は一番難しい事柄となり、一方でオンラインでの対応が求められることが多くなるなど、新しい時代への対応は予断を許さない状況となりました。

サービス実施に対する制限は無かったものの、在宅サービスにあってはご利用者自らご利用を控えられるなど事業全体への影響は決して小さくは無く、また入所されている皆様へのご面会なども制限せざるを得ませんでした。毎週のように来所して頂いていたボランティアの皆さんの活動も止めて頂きましたが、平素より直接の活動の他に入所者の皆様との関りにより、日々の生活に彩を加えて下さっていたボランティアさんがこんなにも長い期間来られないことは、私達が考えていた以上に影響の大きいものでありました。

当法人は年間の行事も多く、その一つひとつにもそれぞれに目的がございます。各行事の共通する目的の一つにはご利用者の皆さんに四季を感じていただく事もあるのですが、代表的なもので申しますと夏に行う「地域ふれあい納涼盆踊り大会」や秋の「清流文化祭」などです。本年度は残念ながら開催する事は出来ず季節の移り変わりを感じて頂く機会を逃してしまう部分もありました。しかし、そんな中でも職員の皆さんは「集まっていただく事は出来なくても、季節を感じていただく方法を考えよう」と取り組み、納涼盆踊り大会に代わり地域のお盆の時期に合わせて、新型コロナウイルス感染症が収まるようにとの願いを込めた「祈念花火」を企画しご利用者の皆さんと一緒に打ち上げを見守りました。

この様に様々な制限がある中でも、如何にご利用者の生活の質を落とさないで行くか。職員は皆、過去の経験や知識、そして知恵を総動員して取り組んで来ました。大きな集まりは出来なくても、部署毎に季節行事を企画実施したり、普段とは違う取り組みにより、日常の中で新たな楽しみを模索したりしました。そうしますと、新たな気付きもあり、大きな行事では限られたご利用者での対応が必要となっ

まった事も、部署毎のものであれば全員の方に参加して頂くことが出来、普段とは違う反応を見せて頂けたりもしました。

コロナ禍でマイナスな事は勿論多くありますが、「マスクの着用を徹底することでインフルエンザの発症者が出なかった」、「会議や研修など外部に出る機会は減ってしまったが、その分内部を見直す時間が出来た」などプラスとも取れる事柄もありました。どの様なマイナスの状況にあっても、そこに隠れているプラスの事を探し、常に意識を前向きな方向に向ける姿勢を取り続ける事が大切と考えます。

令和2年度は前年度に引き続き建物設備の改修工事に取り組みました。玉川グリーンホーム本館の機械浴と空調設備は、それぞれ平成15年と平成17年に一部機械などを交換しているのですが、普段からの使用頻度も高く修理部品の供給も先行きが細くなるなど懸念事項も多かったことから、大規模な改修を計画実施しました。

いずれの工事も経理規程上入札が必要となる金額が見込まれ、理事会での入札参加事業者承認の上、入札から契約、工事の実施と進めました。工事期間におけるご利用者の皆様のご理解ご協力、職員の皆さんの状況に応じた対応、何よりも施工業者の皆様の安全への配慮や卓越した技術により、新型コロナウイルス感染症も含め非常に厳しい状況の中でも、決められた期間内に完成していただく事が出来ました事に対して改めてお礼申し上げます。

これらの改修工事を含め今年度は多くの固定資産取得のための費用が掛かりました。また固定資産取得とはならずとも細かな修繕関係は多数発生し、その為の費用は年々上昇しております。玉川グリーンホームのみならず、年度末で開所から10年を迎える高松山グリーンホーム、そして愛甲グリーンホーム、小町山グリーンホームと言った各事業所においても修繕や、ご利用者の状況の変化に対応するための改修などは今後も必要になると予測されます。それ故にそう言った修繕の為の費用や、将来的な建て替えや改築に向けて、年数を掛けて資金をプールして行くことも事業を継続するためには重要な事となります。事業計画に掲げた「存在し続けるための経営改革」も未だ道半ばではありますが、管理的立場にある職員さんの指導もあって以前よりは格段に全体の意識は高まってきていると思います。

当たり前と思える日常のありがたさ、直接他人と関われることの幸せさ。その様な事に多く気付かされた一年であり、改めて自分達を見直す一年でもあったと思います。状況を嘆くこと無く、少しでも前を、少しでも上を目指して「成すべきことを徹底して行う」。社会福祉法人として、高齢者介護に携わるものとして、そして一社会人としての原点を確認した一年となりました。

## 法人動向

### 理事会開催状況

開催日	審議事項	出席者数	
		理事	監事
令和2年 5月25日	1 令和元年度事業報告及び令和元年度計算書類等の承認の件 2 役員の報酬額及び役員等報酬規程の件 3 定時評議員会の招集の件	7名	2名
令和2年 6月19日	1 玉川グリーンホーム本館機械浴槽入替入札参加事業者選定の件 2 玉川グリーンホーム本館空調・換気設備改修工事入札参加事業者選定の件 3 役員等報酬規程改定の件	7名	2名
令和3年 3月6日	1 令和2年度第一次補正予算の件 2 令和3年度事業計画の件 3 令和3年度予算の件 4 玉川グリーンホーム介護保険事業者変更申請の件 5 玉川グリーンホーム新館ダイルーム改修工事入札参加事業者選定の件 6 土地購入計画の件 7 評議員選任・解任委員会委員選任の件	7名	2名

### 監事監査

開催日	監査事項	出席者数
令和2年 5月15日	1 令和元年度理事の業務の執行について 2 令和元年度法人の財産の執行について	2名

## 評議員会開催状況

開催日	審議事項	出席者数
令和2年 6月12日	1 令和元年度計算書類・財産目録承認の件 2 役員の報酬額及び役員等報酬規程の承認の件	8名

## 調査等実施状況

令和3年 2月24日 神奈川県次世代育成課立ち入り調査  
児童・保育室「ゆめっこ」

## 入札実施状況

### ◆玉川グリーンホーム本館 機械浴槽入替工事

実施日時 令和2年9月4日 午前10時

参加業者数 2社（指名業者3社のうち1社辞退）

落札業者名 有限会社 東京ダイヨー器械店

### ◆玉川グリーンホーム本館 空調・換気設備改修工事

実施日時 令和2年9月4日 午前11時

参加業者数 4社

落札業者名 大塚冷暖房 株式会社

## 新型コロナウイルス感染症への対応

◆入館制限：令和2年2月25日より面会制限を実施。他の方の入館についても最低限に致しました。なお、面会については予約により窓越しなどによって面会して頂けるように取り組んでいます。

◆職員の取り組み：職員は出勤前の体温測定や入館時の手洗い、手指消毒、うがい、不織布マスクの着用、休憩における場所・時間の分散をしています

感染予防の徹底により今年度は法人全体においてインフルエンザやノロウイルス等による感染性胃腸炎の感染も発生しませんでした。

## ●玉川グリーンホーム

### ○介護事業部

#### ◆施設介護課（入所相談担当）

入退所検討委員会を通じ、法人内で情報共有を図ることにより、ご利用者の身体状況にあったサービスの提供が行えたと感じています。また、様々な事情があるご利用者に対し、必要に応じ長期ショートステイ利用を受け入れることで、入院者ベッドの有効活用をすると共に情報収集を行う期間ともなり、入所後の継続した対応に繋げることが出来ました。

新規ご入所者に対しては、ケアマネジャー、相談員が連携することにより、スムーズな情報収集、各担当者への情報発信が出来たと感じています。しかし、看取り対応者の増加に伴い、退所者が増える中、空床へのスムーズな新規入所が行えなかったこともあり、稼働率の低下に繋がってしまったと感じています。

コロナウイルスの感染予防として一部面会を制限させていただきましたが、少しでもご入所者のご家族とのコミュニケーションが図れるよう、窓越しでの面会の実施や、各セクションと協力し施設内での様子を撮った写真を送付することで、ご家族に喜んでいただき、感謝の言葉をいただくことが出来ました。

#### ◆施設介護課（ケアプラン担当）

施設ケアマネジメントを見直し、各ケアマネジャーが統一したマネジメントが行えるよう、マニュアルを整備し、実践することで、ご入所時や認定更新時のアセスメント、ケアプランの作成、担当者会議、ケアプランの交付といった一連の流れがスムーズに行うことが出来ました。

反省点としては、定期的に行うモニタリングが不十分であり、ケアプランの実施状況の把握や必要に応じた再アセスメントの実施が出来なかったことが挙げられるため、今一度モニタリングの実施方法等については検討していきたいと感じています。

#### ◆施設介護課（介護担当）

今年度は40名の方を施設でお看取りさせていただきましたが、穏やかな最期を迎えられるご入所者が多く、医務課や栄養課などの多職種との連絡が取れていた結果と考えます。また、ご家族からは最期を看取る事ができたことや安らかな最期を迎えられたことへの感謝の言葉をいただくことが出来ました。

ご入所者の整容や環境衛生の面では職員間で周知徹底ができず、十分な対応が出来なかったと感じております。ご入所者にとって整容や環境衛生は、その方の尊厳

を守り、穏やかで安心した生活を送っていただく上での基本であり、介護の基礎であると考えます。来年度は改善に取り組み、常に丁寧な介助を心掛け、ご入所者、ご家族が安心して穏やかに過ごせる環境整備に努めていきたいと思ひます。

#### ◇本館特養係

四季を感じていただけるようなレクリエーションの実施を目標とし取り組みました。複数人で集まり密となってしまうレクリエーションは避け、個々で行える工作等を取り入れたレクリエーションを定期的に実施することにより、少しでも季節を感じていただけるよう努めました。

終末期の対応としては 32 名のお看取り対応をする中、栄養カンファレンスや看取りカンファレンスの実施を通じ、ご本人に寄り添った支援方法を検討し、実践できたと感じています。今後ご本人、ご家族の想いに沿った支援がおこなえるよう、多職種との連携を図りながら取り組んでいきたいと思ひます。

安全管理の観点からは、転倒や原因不明な内出血等の介護事故が多く発生してしまつたことは大いに反省すべき点だと感じています。来年度は、一つひとつの介護方法を見つめ直し改善を図り、ご利用へ安心・安全な支援が出来るように努めてまいります。

#### ◇新館特養係

個別ケアの充実を図るために介護過程の展開を目標に掲げ、ご入所者の情報整理シートの作成をすることにより、その方の「強み」を明確にすることが出来ました。しかし、次の段階でのカンファレンスの実施は不十分であり、来年度の目標としております。今後 P D C A サイクルを意識し、ご入所者の生活が豊かになれるような介護を目指したいと思ひます。

ご入所者への接遇については、職員一人ひとりが常に高い意識を持ち、丁寧な対応を行うことに努めています。その結果、ご利用者の B P S D の軽減が図れていると感じてします。今後ご入所者本位の姿勢を忘れず丁寧な介護を目指します。

#### ◇ショートステイ係（ショートステイ）

ご利用者・ご家族から信頼していただけるために、言葉遣いや立ち振る舞いを心掛け、送迎や電話対応などにも失礼のないように努めてきました。しかし、時に職員の言葉遣いが乱れてしまうことや B P S D が見られるご利用者に対して、適切な対応が出来なかつたことがありました。業務の見直しや、認知症への理解を深め、今後は介護の専門家としての意識を持ち、適切な対応がおこなえるよう取り組んでまいります。



また、職員間でお互いの思いを理解し合い、一つの課題解決に向けてチームケアとして取り組むことが出来たので今後も信頼関係を深めて行きたいと思います。

稼働率については、コロナウイルス感染症に伴い、利用を控えるご利用者も見られ、稼働率の低下が見られてしまいました。そんな中ではありましたが、空床を活用し長期ショートステイを受け入れることで、様々なニーズに対応しつつ、稼働率の向上に繋げることが出来たと感じています。なお、隣接するデイルームの改修工事に伴い3月より事業を縮小して継続しました。

#### ◇ユニット特養1係

各職員が自分の役割、担当に責任を持ち個人の強み（長所）を発揮して業務を円滑に遂行することができたと感じています。コミュニケーションの大切さは職場環境、ご利用者のケアにも繋がりますので引き続き意識していきたいと思っています。

介護の質の向上への取り組みについては、具体的な取り組みの機会が少なかったため、来年度は知識・技術の向上ができるよう計画的に取り組んでいきたいと思います。

#### ◇ユニット特養2係

職員間でのコミュニケーション不足が目立った年度となってしまいました。来年度は職員間のコミュニケーションを密に図り、また、ご入所者間のコミュニケーションも円滑に行えるように支援していきたいと感じます。

全体としては、ご入所者の健康管理に留意し、医務課と連携を図り異常時の早期発見、早期対応に努めることで、入院者数の減少に繋げることができたと思っています。しかし、衛生管理や環境整備についてはまだまだ、不十分だと感じており、来年度は衛生業務のマニュアルを見直し、改善していきたいと感じています。

### ◆在宅介護課

#### ◇居宅介護支援係（ケアマネジャー）

「ご利用者の想いに沿ったケアの実施」を掲げ、アセスメント書式の見直し・変更を行い、また、ケアプランの基本的な作成内容についても、再度確認を行うことで、チーム内で統一した対応が行えました。

今後もケアマネジメントの一連の流れをチーム全員が行い、ご利用者の在宅生活が充実できるような、ケアプランの作成に努めていきたいと思っています。

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、研修の開催が減っている中でも、自己研鑽のために書籍の購入し知識を深め、オンライン研修等にも積極的に参加しました。

また、居宅介護支援係会議・勉強会の中で情報共有を行うなど、チームの専門性の向上に努め、信頼されるケアマネジャーを目指しました。

#### ◇通所介護係（デイサービス）

ご利用者の重度化や認知症の進行に対応するため、「ケアの質、認知症ケアの質の向上」を掲げました。皮膚のトラブルがあり他者に見られることに抵抗があったご利用者の個別での足浴を行い、保清に努めました。数か月後には皮膚の改善がみられ、他のご利用者と一緒に入浴することが出来、目標の達成に繋がりました。今後も、ご家族やご利用者に寄り添い個別ケアを継続していきたいと思えます。認知症ケアでは、アセスメントを通して安心して過ごせるような環境を整えました。

与えられた目標ではなく、自分たちで毎日チーム目標を掲げることで、意識が高くなり職員全員が同じ方向を向き目標に取り組み、ご利用者へ丁寧な対応ができました。また目標を日々振り返ることでより意義のある取り組みとなり、次の目標に繋げることができました。

新型コロナウイルス感染症の影響により稼働率の低下がみられてしまいました。しかし、感染症予防としては、消毒、マスク着用、検温、換気、手洗い、アクリル板の使用等を徹底して行うことにより、予防が出来たと感じています。

#### ○総務部

##### ◆総務課

令和2年度は大きなものとしては本館の機械浴室改修工事と本館の空調及び換気扇の改修工事を行いました。新型コロナウイルスの感染拡大によりマスク・グローブ、消毒関係等衛生用品の入手困難な状況も発生しましたが、取引事業者の協力や県や市からの供給もあり何とか乗り切ることが出来ました。また、前年度に引き続き車両の適正台数の見直しを行い、車検満了のタイミング等で廃車も行い台数削減を実施しました。数年前から24時間テレビチャリティ委員会へ福祉車両寄贈に応募しておりましたが、令和2年度にリフト車1台の寄贈を受けることが出来ご利用者からも喜ばれました。

一方で設備・備品等についても経年劣化が著しく、様々な突発修理が発生しましたが、早急な対応に努めました。日頃よりご利用者や入所者のサービス提供に支障がでないよう、現場職員にも不具合を早期発見し報告するよう周知して管理面の徹底に努めました。

新型コロナウイルス感染予防の為、換気を行いながらの空調使用となり光熱費は増加しましたが、毎月の運営会議にて光熱費の使用状況報告を行い、節電・節水等

の協力を呼びかけました。

法人の窓口として、入所者・ご利用者はもとより、来訪者の方等に不快な思いをさせないように品格の向上を意識して親切な対応を心掛け、適切に対応いたしました。

#### ◆栄養課

栄養課では新型コロナウイルスを初め、衛生面に関してはしっかり出来たと思います。体調を崩す事無く熱を出す人もいませんでした。昨年10月より栄養ケアマネジメントに取り組みマニュアル作りから始め、他職種協働でカンファレンスを行っています。今まで以上に入所者一人ひとりにきめ細やかな対応をしてまいります。

法人の大きな行事は出来ませんでしたが、毎月の誕生会や祝日は小豆ご飯等でお祝いしました。各セクションでのイベントにも協力し、栄養課としてはかき氷アイスイベント、秋の味覚弁当、クリスマス、お正月の祝い膳、ひな祭りには恒例となったにぎり寿司をセクションごとに行い、今年度も高松山グリーンホーム、愛甲グリーンホームへ出向いてお寿司を召し上がって頂き大変喜んで頂きました。

栄養課職員のチーム作りは縦、横の連携の取り方が一部スムーズでなかったような所がありました。今年度はスムーズな連携、気持ちの良い職場を目指し、決められた事を継続して行いそれを徹底することを目指します。

#### ◆医務課

医療依存度が高まる中、介護現場からの情報をもとにご利用者の状態変化に対するフィジカルアセスメントを行い、早期対応・早期治療を目標にして日々の業務に当たってきました。入院治療が長期化するケースも多く課題は残りますが、ご利用者を取り巻く多職種との連携をさらに強化し、引きつづき最優先に取り組んでまいります。

栄養カンファレンス、看取りカンファレンスや日々の申し送りで連携を図ってきましたが、介護現場における判断支援の取り組みとしては医務課主導になることが多く課題が残ります。現場である介護職が安心して業務遂行できるよう支援していくとともに、困っていること・不安なことを遠慮なく相談できるような関係づくりに努めてまいります。

今年度40名の施設看取りをさせていただき、ご家族からは穏やかな良いお見送りができたというお言葉も多くいただいています。また、現場スタッフからも施設内看取りの同意をいただいていることで、安心してお世話することができているという意見もあります。

終の棲家として当施設に入所されたことをふまえ、ご入所者、ご家族の意向を尊

重しつつ、一人でも多くの方が穏やかに人生の幕が降ろせるよう、施設としての看取りのあり方や知識・技術の習得に向けて具体的な取り組みをしていきたいと思えます。

## ●高松山グリーンホーム（認知症対応型共同生活介護(グループホーム)）

感染症対策に努めながら可能な限り行事イベントを計画・開催することで入居者の充実した日常生活を送れるよう努力しました。しかし、些細なミスが大きな事故につながり入居者の安全とご家族の信頼を得ることが出来なかったことがありました。この苦い教訓を活かし、細やかな気配りを心掛け、同じような失敗を繰り返さないよう取り組んで参ります。

社会人としても、専門職としても基本となる姿勢が出来ていない職員がいました。マナー・目標・課題を設定しても、職員によって意識の格差が生じています。同じ方向を向いて進んで行けない職員をどう向かせるかが一番の大きな課題です。また、業務に一生懸命である一方、その業務に追われ焦りから感情的な言葉遣いや態度を取ってしまうことがありました。感情的になって接しても良いことは一つもないため、常に冷静に平常心で接し良い関係を築けるよう努力する必要があると考えます。

コロナ禍ではありましたが、地域の方からもお声掛け頂くなど配慮をして頂き、地域のイベントなどには可能な限り参加させていただきました。地域住民の皆さんと協力しながら、地域に必要とされる施設となるよう心掛けました。

令和2年10月から、特養への移行、在宅復帰、老衰により退居者が続き、空き室が3床発生しました。新規入居者もなかなか見つからず稼働率の低下がみられました。入居を希望される方も、相談を頂いた時が入居したい時であり、空きが出来るまで待ってられない状況で他施設へ入居してしまうということがありました。空いた時と入居したい時が合えばすぐに入居に結び付くのですが、なかなか理想通りにはいかないのが現状であり、対応を次年度以降の課題とします。

令和3年3月末を持って開所から丸10年となります。入居者全般的に加齢とともに認知症の進行もあり重度化してきているのが現状です。事業所で出来る限り対応させて頂く一方で、なるべく重度な状態となる前に他施設（特養等）へのスムーズな移動が行えるようご家族と情報を共有しながら、その方にとって一番適した施設を選択していただけるように努めていきたいと思えます。

安全を第一に努めて参りましたが、転倒・転落等による事故が発生し、うち骨折4件、打撲1件の事故がありました。予防策についてはカンファレンスを行い再発防止に努め、特にヒューマンエラーについては徹底して再発を防ぐよう取り組みます。

新型コロナウイルス感染症に対する対応の徹底により、インフルエンザやノロウイルス等による感染性胃腸炎の感染も発生しませんでした。

## ●愛甲グリーンホーム（認知症対応型共同生活介護(グループホーム)）

新型コロナウイルス感染症に世界中が振り回され、感染・発症すると重度化しやすいと言われている高齢者を支える現場は、不安や責任の重圧があったと感じます。しかし法人の衛生委員会の指示・指導もあり、感染者ゼロと至っています。今後も、スタンダードプリコーションの徹底、他の感染予防対策に講じて参ります。

入所申し込み待機者がゼロであることが続き、空室のご案内がスムーズではなかったと感じます。特色を明確にし、施設のPR方法を検討し、実績向上に繋げていかなくはなりません。

職員間で情報を共有し、事故防止に努めましたが、転倒・転落事故のうち骨折事故が3件とありました。入居者の下肢筋力低下、生活環境の変化が要因とはいえ、今後も再発防止に努めます。

新しい取り組みとしまして、理学療法士による個別機能訓練指導を月2回実施いたしました。この訓練により入居者の皆さまの達成感、職員の専門性を高める良い機会となり、今後もケアに反映して参ります。

様々な催しが中止となり、事業所内での催事が多くあった年でもありました。催事を職員が企画し開催、家庭的な雰囲気の中楽しんでもらったと感じています。

## ●小町山グリーンホーム

### （サービス付き高齢者向け住宅（特定施設入居者生活介護））

サービス付き高齢者向け住宅で安心して生活ができるように、個々の身体的・精神的状況に応じた介護サービスや生活援助を計画的に提供することができました。新型コロナウイルス感染症予防では入居者・ご家族・職員が協力・理解して感染対策を行い、感染者がでなかったことは日々の生活への安心に繋げることができました。コロナ禍の状況で地域行事は全て中止となりましたが、感染対策を講じながら施設内で出来る季節イベントの開催や移動販売の導入によりサービスの低下を防止することが出来ました。

今年度は7名の退去がありました。申込待機者がおらず空き室が長期間になることがありあましたので、今後は申込待機者を増やすための対策に努めてまいります。

## ●厚木市玉川・森の里地域包括支援センター

厚木市が目指す「地域包括ケア社会」の構築へ向けて中核を担う機関として、様々な目標を掲げていましたが、新型コロナウイルス感染拡大により事業計画は大きく変更せざるを得なくなりました。当センターの主催事業でもある高齢者の方の健康維持・向上・交流を目的とした集いの場『ふれあいデイ』や、地域の方に向けて健康増進・介護予防の知識等を発信する『元気いきいき教室』などは休止・中止を余儀なくされました。介護家族への慰労・ストレス解消の場としての『介護家族健康相談・交流会』では、交流会は休止し保健師との健康相談のみ対面もしくは電話相談(緊急事態宣言中)としました。

地域でも様々な行事が自粛され、先の見えない状態の中で高齢者の方が閉じこもりがちとなり健康状態に影響が出ないか憂慮しつつ、新しい生活様式を踏まえ感染対策を講じながら人と人とのつながりを大切に活動してまいりました。

地域ネットワーク(顔の見える関係での支援の輪)は制限を余儀なくされましたが、民生委員はじめ地域団体や住民の方からは近所で心配な高齢者がいれば相談をいただき訪問するなど、対面する機会は減る中でも長年にかけて築いてきた関係性は活かせることを、コロナ禍となり改めて実感しています。

『ふれあいデイ』ご利用者は、毎月電話連絡しての健康確認や自主制作している広報紙『通信ふれあい(春号・夏号・冬号)』のポスティングを行い、ひとり暮らし老人登録者へは、電話連絡し健康状態に心配のある方は改めて訪問し面談しました。ケアマネジャーの定期訪問も玄関先や行政指導のもと一時電話対応に切り替えるなど、今までに無い対応を日々相談しながら臨機応変に行いました。

又、新たな試みとして相談業務の内容をより詳細に把握し、今後の地域支援事業に活かすため35項目の分類を行いました。令和2年度の結果として新規相談件数は171件で、森の里地区からの相談が全体の67.8%と高く、玉川地区は23.4%(七沢12.3%、小野8.2%、岡津古久2.9%)でした。相談内容は、介護相談:60.0%、認知症に関する相談:5.1%、癌に関する相談:4.9%、骨折に関する相談:3.0%でした(※詳細は付属明細参照)。これらをもとに「玉川・森の里見守り支え合い会議」等での議題の1つとして提議し、地域の皆様とともにこれからの地域づくりを相談していければと考えています。

今後、日々模索しながらの中ではありますが、高齢社会の時代を中枢で支えるセンターとしての使命感のもと相談援助業務に取り組んで参ります。

## ●地域貢献事業等

### ○配食サービス（安否確認を目的とした配食事業）

栄養バランスのとれたお弁当を届けると共に、コミュニティを図り安否確認を行いました。実施数としては決して多くはありませんが、生命維持の基本である食の部分を支える一助として活動しています。

### ○地域コミュニティ交通（買い物支援事業）

今年度、新型コロナウイルス感染症のため活動を自粛する。

### ○ライフサポート事業（生活困窮者相談支援）

今年度、支援等の相談はありませんでしたが、職員をライフサポート事業コミュニティソーシャルワーカー（CSW）養成研修の講師として派遣しました。

## ●委員会活動

### ○育成委員会

令和2年度は、介護福祉士を目指す職員を増やす、または意識してもらうためのアプローチとして、先輩職員によるエピソードやエールや試験概要や申込期限等が書いてある冊子を作成いたしました。冊子の内容は紙媒体だけではなくQRコードを使用して閲覧出来るようにもしました。

また、日常のケアにおいて、入所者、ご利用者の異常や状態変化を捉えるために、高齢者特有の観察ポイントを理解し、その方の「正常」を理解するため、また、介護実践につなげるために必要な観察方法やアセスメントの視点、高齢者のよくある疾患を理解し、報告について学ぶことを目的として、フィジカルアセスメントの基礎編、応用編の2回、研修会を開催いたしました。今回は新型コロナウイルスの予防より、少人数での研修会を試みました。

#### 1. 研修会開催（職員）

開催日	テーマ	講師	参加人数
R2. 12. 1 ～R3. 1・31	介護現場で活かすフィジカルアセスメント 基礎	委員会 メンバー	92名
R3. 3. 1 ～R3. 3・31	介護現場で活かすフィジカルアセスメント 基礎	委員会 メンバー	82名

## ○介護技術向上委員会

今年度の当委員会は、昨年度より引き続き、ケーススタディを実施しつつ、認知症ケアマニュアル作成を目標に各セクションよりアンケートを取らせていただき、「成功事例集」の作成を開始しました。

実際にはケーススタディの相談事例件数が少なく、新型コロナウイルス感染症の感染予防の観点から大人数での法人内研修会も開催出来ないため「定期勉強会」として毎回テーマを決め、参加者を少人数とし短時間（30分）で実施しました。各テーマについて担当の委員自らが勉強・資料を作成し講師となって、知識の共有を図りました。

今年度は初回ということもあり、基礎的な内容を多く取り入れましたが、この勉強会を継続しステップを踏んで向上していきたいと考えます。

次年度に向け、認知症ケアマニュアル作成を継続し、ケアの統一化を図れるよう尽力し、ご利用者・ご家族・職員の安心につながるよう努めてまいります。

### 1. 定期勉強会

開催日	テーマ	講師	参加人数
R2. 9. 24	認知症ケア ユマニチュード	玉田・原	9名
R2. 10. 28	ボディメカニクス 移乗介助	高橋・小河原・原	7名
R2. 11. 25	入浴介助	植田・黄木	5名
R2. 12. 23	食事介助	坂本・高島・岩淵	7名
R3. 1. 27	排泄介助	廣田・原	6名

## ○サービス向上委員会

言葉遣いや立ち居振る舞いに留意し、ご利用者に気持ちよく安心した生活を送っていただくために、職員の日々の言動や業務に対してのマナーを振り返り、職員マナーの向上を目指した取り組みを行いました。

- ①各セクションにて職員のマナーについてのアンケートを実施し、課題を明確にする。「令和2年度職員マナーについてのアンケート」の実施、集計。
- ②アンケートにて挙げた課題の改善に向け、各セクションで目標を設定し取り組



み、振り返りシートを使用し目標に対しての自己評価を行い改善に努めました。

苦情・相談受付件数は5件となりました。相談内容やその後の対応についても、全職員で情報共有し、再発防止に努めました。

1. 苦情・相談受付件数

玉川グリーンホーム	本館特養	1 件	
	ショートステイ	1 件	
	通所介護	1 件	
	居宅介護支援	1 件	
愛甲グリーンホーム		1 件	
小町山グリーンホーム		1 件 (ご要望)	合計 6 件

2. 苦情相談外部委員会の開催

第1回苦情相談外部委員会	令和2年10月26日	出席外部委員	2名
第2回苦情相談外部委員会	令和2年3月12日	出席外部委員	2名

3. 厚木市介護相談員来所回数

新型コロナウイルス感染症予防のため、来所中止

○拘束・事故防止検討委員会

今年度はヒヤリハット報告(インシデント)、事故報告(アクシデント)と事故の定義を改正し、報告書や管理についてコメントケア(ケア記録システム)を活用しました。分析した中では入所においての内出血・剥離の事故について、事故防止と身体拘束の両視点から精査しました。行政報告事故においては骨折に至る内容が多く挙がっており、委員会を通じて減少への取り組みを次年度も課題と致します。

身体的拘束適正化検討委員会を定期開催し、各事業所の現状の確認を行い、施設内研修では身体拘束の研修を実施し法人全体での参加へ働きかけました。

ご利用者への言葉遣い、不適切な対応について各現場での課題が報告され、改善への検討を行いました。言葉遣いについては定期的に意識していくことが肝要であり施設内研修を通じて意識向上へ取り組み、また「虐待防止に係る一斉点検シート」から服薬方法の改善を行いました。

1. 研修会開催

開催日	テーマ	講師	参加人数
R2. 8. 18 ～ 9. 30	虐待防止について ～虐待や拘束をしないケアを	委員会メンバー	143名
R3. 1. 1 ～ 1. 31	身体拘束 ～スピーチロック	委員会メンバー	143名

## 2. 身体的拘束適正化検討委員会

第1回 令和2年4月24日

第2回 令和2年7月13日

第3回 令和2年10月6日

第4回 令和2年12月14日

第5回 令和3年3月2日

※ 各事業所における身体的拘束について現況を確認しながら、拘束並びに虐待等に対する職員の意識を高めるように取り組んだ

## ○ICT推進委員会

コロナ禍における感染防止対策の一つとして、今年度よりICT推進委員会の委員会開催ではオンライン会議の導入を行いました。また、その他の会議等においても必要時にオンライン会議を活用できれば、感染症対策だけでなく業務改善にも繋がると考え、研修会を開催するなど、法人のICTの推進に努めました。

機関誌「清琉」作成において印刷コストの見直しを行い、第66号より印刷業者を印刷通販業者に変更し、大幅なコストダウンに成功しております。

### 1. 機関誌「清琉」制作

第65号 令和2年9月30日発行

第66号 令和3年3月31日発行

### 2. ホームページの月間予定等お知らせの管理・更新

### 3. 介護記録システム（コメントケア）現況調査

### 4. 研修会開催

開催日	テーマ	講師	参加人数
R 3. 1. 19	オンライン会議の開催方法	委員会メンバー	36名

## ○環境衛生委員会

令和2年度は新型コロナウイルス感染症の流行により、施設内にて新型コロナウイルス感染症が発生した場合を想定し、各部署単位にガウンや足踏み式消毒器、使い捨て食器などの必要物品の確保、ゾーニングの準備を進めました。

法人内研修では「感染症対策の基本、感染予防の為のガウンテクニック」のテーマで9月から10月にかけて各部署単位にて実施しました。新型コロナウイルスに対応したガウンテクニックの為、感染予防具の着脱から処理までをビデオカメラで撮影し、研修以外でも全職員がパソコンから動画を見て学べるようにしました。

例年以上に職員の意識も高かった思え、インフルエンザやノロウイルス等による感染性胃腸炎の感染も発生しませんでした。喜ばしいことではある一方、以前から同様の取り組みを行っていたにも関わらずインフルエンザなどが発生していたことは、取り組みが徹底出来ていなかった事の表れともとれるので、今後はより意識を高め、その高めた意識を維持出来る仕組み作りや、スタンダードプリコーションを徹底し感染症予防の啓蒙活動にも努めてまいります。

#### 1. 研修会開催（職員）

開催日	テーマ	講師	参加人数
R2. 9. 19 ～R2. 10・31	感染症対策の基本 ～感染予防の為のガウンテクニック～	委員会 メンバー	83名

### ○防災対策委員会

玉川グリーンホーム、高松山グリーンホーム、愛甲グリーンホーム、小町山グリーンホームにて地震、火災の対応について防災訓練を実施し避難経路の確認、誘導方法、消火機器・設備の取り扱い等が適切にできるよう努めました。また各事業所の立地条件により起こりうる災害を想定した訓練を行い防災意識、対応力が向上したと思います。

備蓄食料や食料品以外の必要物品についての見直し、非常食の補充と管理を行いました。

昨年度、緊急連絡手段としてマ・メールを活用することが決まり、今年度は運用方法や操作方法について研修会を開催し実際にメールの送受信を行いました。研修後も毎月1回マ・メールを活用しメールを送信し送受信の練習を行っています。

災害は突如発生します。災害が発生した際に誰もが対応できるよう訓練を重ねていきたいと思っております。

#### 1. 研修会開催

開催日	テーマ	講師	参加人数
R 2. 10. 16	緊急連絡網『マ・メール』について	委員会メンバー	40名